



12月14日(木)に6年生は、小山田小6年生と合同人権学習を行いました。水平社宣言に書かれているキーワード(人としての誇りをもつこと・団結することの大切さ・人は尊敬されるべきもの)は、明るくあたたかい差別のない社会の実現に向けて大切なことであることを学びました。授業の中で、「人を差別する」の反対語は「人を尊重・尊敬すること」だとも話しました。「『尊敬する』では言いすぎだ」と思う人がいるかもしれませんが、どんなに欠点が多い人でも尊敬できるところが必ずあります。人の尊敬できる側面を見ることで、人と人とは平等で対等な関係になります。その人のことを全面的に尊敬できなくて否定し、批判するところがあってもいいと思いますが、尊敬する面と必ずセットでその人と付き合っていくことがとても大切なことだと思います。授業の中では「人を尊敬する」という意味がよくわからないという人もいたと思うので、裏面にもう一度「リスペクト アザース」の文章を載せておきます。人を尊敬するということがどういうことなのか、少しでもわかってくれたら幸いです。

6年生が授業後に感想を寄せてくれたので、少し紙面を借りて皆さんに紹介し、共有したいと思います。

- 水平社宣言が起草されたころの時代は、男性中心に社会が成り立っていたことを初めて知りました。西光万吉は、なかまがいたことで希望を持つことができ、すごい人だと思いました。水平社宣言の水平の意味が、どこまでも水平で、差別のない意味だということがわかりました。「人の世に熱あれ、人間に光あれ」という意味も、話を聞いてみれば、あたたかさや思いやり、夢や希望といった意味があることがわかりました。
- 人を差別することの反対は、人を尊重・尊敬することだと知りました。「兄弟よ」「男らしき」など、水平社宣言には出てきますが、昔はそんなことを言ってもなんとも思わない時代なのだと思います。でも、社会意識が変わり、今の時代は差別につながる言葉になってしまうのだと思いました。
- 人を差別するのではなくて、人を尊重したり、尊敬したりするようにしようと思いました。西光万吉は差別に負けずに立ち向かっていったからすごいと思いました。
- 万吉さんたちが、差別する人たちがたくさんいるのに、それに少人数で立ち向かっていくのはすごかったし、何よりもなかまの存在がとても大切なのがありました。山田孝野次郎さんの話の中に、当時は先生までもが差別をし、教え子に冷たい視線を向けていたことにも驚きました。差別がなくなっていない現在の状況を改善したいと思いました。
- 「差別を残さない、許さない」という強い思いを持って生きていきたいと思いました。反差別のなかまを作っていきたいと思いました。
- やっぱり差別はよくないと思いました。差別などで自殺をしたりすることがあったりするからです。水平線は「みんな平等に!」という意味があることを友だちの意見を聞いて初めて知りました。「生まれながらに尊敬すべき」「生きているだけで素晴らしい」等の言葉がものすごく心に残りました。
- いじめや差別は本当に良くないと思います。「リスペクト アザース」や「水平社宣言」などには、いじめや差別に関することが書かれていました。「リスペクト アザース」を書いた人は、日本の小学校に来て、「侮辱するようなひどい言葉を言い合っても、『冗談』と言ってうやむやにしていることに驚いた」と言っていました。「リスペクト アザースはここにはなかった」とも言っていました。確かにそうだなと思いました。もっとこの世界に「リスペクト アザース」が浸透していけばいいなと思いました。
- 西光万吉たちは、差別のある世の中で、差別をなくそうとするすごい活動をしていました。山田孝野次郎も演説をして、人を虜(とりこ)にするような発言をして、葬儀には2000人も人が集まったらいいです。山田孝野次郎の発言に賛同する人やその発言で心が変わった人がたくさんいて、西光万吉たちも強い気持ちを持って差別をなくそうとしたから、水平社運動ができたのだと思いました。これから西陵中に行ったら、小山田小の子と一緒にいるけど、いいなかまを作っていきたいです。



水平社宣言の「尊敬」には、『人の存在そのもの、生きている事そのものが尊い』という理解があります。当時、西光万吉やその仲間たちは「人の世に熱あれ 人間に光あれ」という結びの言葉にどんな思いを託したのでしょうか。2022年3月3日で全国水平社創立100年を迎えました。100年前の差別をなくそうとした先人たちの思いに心をはせ、ひと(相手)を大切にする意味を一人ひとりが振り返るきっかけになればと思います。